



かしまHOT通信

9月号 Vol.392

令和7年（2025年）9月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室まで
kouhou@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。



巻頭特集

回復期リハビリテーション病棟のご案内

～かしまのリハビリはここがすごい！～

「認定看護師による勉強会」
実施報告

リハビリポスト (174)

総合診療専攻医の

新・ようこそ家庭医療へ！ (187)

「キッズ医者かしま 2025」を
開催しました！

かしま荘通信

いわきおどり 優勝 しました！

2025.08.01 ONAHAMA

2025年8月1日（金）に開催されました「いわきおどり小名浜大会」にて、かしま病院チームが優勝しました！
当院からは医師、看護師、技師、リハビリ職、事務職が参加し、総勢33名が第一部から第三部まで心をひとつに踊りきりました！
これからも職員一同、この団結力を活かし医療現場や地域に貢献していきます！

かしま病院

巻頭特集

回復期リハビリテーション病棟のご案内

～かしまのリハビリはここがすごい！～



病気やケガなどにより、日常生活の動作が難しくなった方へ、その方の残された機能や環境を活かし、「その人らしい生活」に戻っていただくための一連の働きかけのことをいいます。



リハビリテーションとは？

回復期リハビリテーション病棟とは、家庭復帰・社会復帰・寝たきり予防を目的にリハビリテーションを行う病棟です。

平成15年に浜通りでは当院が初めて開設し、市内外や県外からいらつしやる患者さんへ向けて、病院が連携し専門的なサポートを行っています。



回復期リハビリテーション病棟について



令和7年8月1日より、西3病棟「地域包括ケア病棟」を「回復期リハビリテーション病棟」へ転換し、193床中99床となりました。

今月号では、回復期リハビリテーション病棟について紹介いたします。



関節を動かしたり、筋力や体力を鍛えたり、患者さんひとりひとりに応じた運動を処方します。

住み慣れた家での生活に戻りたい、家族に料理を作りたい、ドライブをしたいという方には、実際の場面を想定した練習や環境設定を行います。

こうしたリハビリ練習に加え、食事や着替え、歯磨きや整容、排泄など、生活そのものをリハビリと捉えたサポートも受けることができます。



かしまのリハビリは 「こころ」がすごい！

365日リハ

病棟基準

退院後支援



ひとりひとりに合わせた
365日リハビリ

※現在1病棟のみ365日リハビリを行っています。
10月より西3病棟でも開始予定です。

医師、看護師、リハビリ、社会福祉士等の多職種がチームを組み、早期の家庭復帰・社会復帰・退院後の方向性を踏まえ、患者さんに合わせたリハビリを考えます。体調に合わせ、時間を短くして数回に分けるなど、無理なく行います。

充実したリハビリの機能

当院は市内で唯一、病棟基準で最も高い「**回リハ**」を取得しています。

※「**回リハ**」は1病棟のみとなっています。西3病棟は現在「**回リハ5**」となっていますが、今後「**回リハ**」を目指してまいります。

退院後へ向けて…



▲シュミレーターを使った運転の練習



▲キッチンで料理の練習ができます。患者さんが作った肉じゃがが先生が食べることも！



▲ここではお風呂の練習ができます。

「回リハ」とは…

- 言語聴覚士（ST）と社会福祉士の配置が義務付けられている。
- 看護師の人員が多い。
- 急性期の治療後、なるべく早い段階での受け入れが可能。
- 1日のリハビリテーション時間が長い。

回復期リハビリテーション病棟（回復期リハビリテーション病棟）の主要施設基準により一部抜粋

また、退院後に入浴や料理、運転などができるように専用の機械を使った練習もできます。

退院後もサポート！

当院では、入院中だけでなく退院後も、切れ目なくリハビリを提供することで、安心して在宅生活が送れるように支援しています。

通所リハビリテーション

可能な限り自宅で自立した生活を送ることができるよう支援する日帰りのサービスです。



訪問リハビリテーション

訪問リハビリは、実際の生活場面・動作に密着します。日常生活の維持・向上だけでなく、家事動作や職場復帰など社会参加へのサポート、住環境の整備、家族や介護スタッフへの介助方法指導なども行っています。



リハビリ実績

- ▼在宅復帰率 84.8%（令和6年度1年間）
- ▼外出訓練、家屋調査、退院時指導など退院先に応じて対応・環境調整を行っています。
- ▼感染流行時も切れ目なく介入します。

学び・向上への取組

患者さんに合わせたリハビリテーションの実践を目指し、各職種（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の院内勉強会や実技練習を月に約2回行っています。また、外部の各職種主催の研修会や学会に積極的に参加し、知識、技術向上に努めています。

リハビリ職員 からの メッセージ



理学療法士
菅野 いつか



作業療法士
福田 一成



言語聴覚士
淡路 未有

言語聴覚療法では脳卒中や頭部外傷後の方に対して、主にコミュニケーションや食べることに對する力を取り戻すリハビリを行います。また、社会復帰や運転再開に向けた支援として、認知機能や記憶力の回復を目指したリハビリも行っています。患者さんの気持ちに寄り添い、安心して一歩ずつ取り組めるようサポートして参ります。

私たち理学療法士は寝返り、起き上がり、座る、立つ、歩くなどの基本動作と呼ばれる動作の獲得を目指し介入しています。さらに回復期リハビリでは屋外や坂道歩行などの応用歩行、耐久性の向上も図っていきます。必要に応じて段差昇降や床上動作など、ご本人の退院後の生活に合わせてリハビリを実施していきます。

作業療法は作業を通して患者さんの回復をサポートするリハビリです。作業とは食事やトイレなどの日常生活動作はもちろん、仕事や家事、趣味などが人らしく生活していく上で必要な動作のことを指します。今は難しい作業も1つ1つできるようになって元の生活に戻れるよう一緒にがんばっていきましょう。



認定看護師による 勉強会実施報告



内容

感染対策の知識を高めよう ～正しく実践！環境整備！

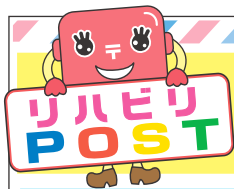


2025年8月20日(水)18時より、当院コミュニケーションホールにて認定看護師による勉強会を開催しました。講師として当院の感染管理認定看護師の木下美子さんが講話を行いました。今回の勉強会には看護師、介護士、ケアマネジャーなど13名が参加しました。

主に、感染対策の基本として、手指衛生、環境整備における標準予防策の講義を行いました。手指衛生は、石鹸と流水を利用した手洗いの方法、アルコール製剤を使用した手洗いの方法の説明がありました。

また、環境整備においては、人によって「キレイ」の基準が違いため、施設内で基準を設けることや、頻繁に人が触れる高頻度接触面の清掃の仕方など、清潔で衛生的な環境を維持する話がありました。

講義形式だけでなく、高頻度接触面はどこなのか、洗面台の感染対策上どのような問題があるのかを参加者で考えるワークの時間も設けました。



第174回 オーラルフレイル

オーラルフレイル(口の虚弱)

口に関する“ささいな衰え”が軽視されないように、口の機能低下、食べる機能の障害、さらには、心身の機能低下までつながる“負の連鎖”に警鐘を鳴らした概念です。

機能低下への負の連鎖



今回はオーラルフレイルについてご紹介していきます。オーラルフレイルとは、加齢や様々な原因によって、お口の機能が衰え始めた状態のことです。オーラルフレイルはいくつかの段階を踏んで進行していきます。まず、口腔機能への関心が低下して、むし歯や歯周病などになり、歯が抜けたり痛みが出てきます。すると、口腔機能が低下して、会話や食事に不具合が出るようになり、食欲が低下したり、日常の活動範囲が狭くなったりします。噛む力や舌の筋力が衰えれば、食べる量も低下して、低栄養の状態になりますし、会話が減れば社会的に孤立していきます。さらに機能が低下すると、咀嚼や嚥下に障害が起こり、要介護の状態になってしまうこともあるのです。

ここで自分で出来るお口の体操「パタカラ体操」を紹介します。まず、「パ」「タ」「カ」「ラ」をそれぞれ5回ずつ(パパパパ、タタタタ…)大きな声で発音します。次に「パタカラ」と続けて発音し、これを5回(パタカラ、パタカラ…)繰り返します。この二つの体操を繰り返し行うことで口の筋肉の衰えを予防してくれます。「パタカラ体操」だけでなく、定期的な歯科検診、バランスの取れた食事、十分な水分補給を行い、オーラルフレイルの予防に努め、健康寿命を延ばしましょう。

言語聴覚士 吉田 愛花



総合診療専攻医の

新 ようこそ家庭医療へ!

毎日が成長痛! 専攻医の修行日記

#187

カバンの中身は牛乳とキャベツ!?

かしま病院で研修を始めて半年が経ちました。この間、都市部の総合診療とは違う「地域に根差した医療」の重みを実感する場面が本当に多くありました。

限られた医療資源の中では、病気そのものだけでなく、患者さんの生活背景や家族との関わり、地域文化まで含めて診ることが大切になります。外来や訪問診療に出かけると、健康を左右するのは薬や検査だけではなく、「買い物や交通の不便」「介護の負担」といった日常の困りごとだと気づかされ

ます。さらに、病気で苦しむのは患者さんご本人だけでなく、そのご家族や地域の人々まで広がっていることも強く感じました。

一方で、医師一人で抱える負担は大きく、チーム医療や地域の方々との協力が欠かせません。高齢化が進む中、介護施設の人手不足という現実にも直面しました。もちろん今の私にできることは限られていますが、現場で感じていたことを周りに伝えることが、地域医療を良くしていく第一歩になるのではないかと考えています。



病院長のコメント

長老のお告げ
「おじいちゃん知ってる」

石井敦病院長

ほう、訪問診療の中で買い物や介護の大変さにまで気づいたとは、なかなか見どころがあるの。昔は往診カバンの中身といえ「薬と聴診器」が定番じゃったが、「キャベツや牛乳」も詰め込んで配達しそうな勢いじゃな!

けれど、それで正解じゃ。病気は体だけの問題ではなく、人の暮らしの中からは生まれるもの。だからこそ診察室は病院の中だけではなく、台所や居間、そして介護ベッドの横にまで広がっておるんじや。

ただし気をつけなさいよ。全部を一人で背負おうとすると、腰も心もギクッリ・ポッキリいつてしまふ。だから仲間と支え合い、「シェア診療」を心がけることが大事なんじや。

医療はスーパージョーミたいに早さを競うものではない。むしろ患者さんと一緒に袋詰めをするように、ゆっくり寄り添う時間こそが家庭医の真価を輝かせるんじやよ。





夏休みに病院の仕事を体験してみよう！

キッズ医者かしま2025を 開催しました！

7月26日(土)に、小学生を対象とした医療体験プログラム「キッズ医者かしま」を開催しました。午前の部と午後の部で、合わせて親子24組の皆さんに参加いただきました。



① BLS(basic life support)研修



目の前で突然人が倒れたときの救命措置を学びます。AED(自動体外式除細動器)を使ったり、心臓マッサージをしたりして、緊急時にできることを学びました。

② 院内見学



入院病棟、CT室、薬局、医療機器管理室、検査室など、院内の様々な部署を回りました。病院の裏側を間近で見ることができ、興味深く話を聞いていました。

③ 軟膏作り体験



2種類の軟膏を混ぜ合わせる体験です。軟膏板やヘラなど、初めて使う道具に苦戦しながらも、軟膏を完成させることができました。

④ リハビリ体験



車いすでのスラロームや段差の乗り越え、利き手とは逆の手でバネ箸を使っての豆つかみなど、リハビリに関する体験をしました。

⑤ 診察体験



先生と一緒に患者さんを診察して、何の病気なのかを診断します。問診、血圧測定、触診、聴診などをして、上手に診断することができました。

⑥ 修了証書授与式



一連のプログラムを終えたあとに、かしま病院長の石井敦先生から修了証書が手渡されました。無事に全員が修了となりました。

開催を終えて

参加した子供たちからは、「困っている人がいたら助けたい」「車いすの手助けができそう」「学校で具合が悪い人がいたら声をかけたい」などの感想がありました。今回の体験が、これからの生活で少しでも役に立てばうれしく思います。



かしま荘通信

落語鑑賞

8月1日(金)



8/1(金)小名浜雀笑落語会様の皆様に来荘いただきました。

かしま荘では落語自体初めての機会を利用者の皆様がどんな反応になるか気になる所でしたが、落語の内容がとても面白く皆様にとても喜んでいただけたようです。



高校生1日看護体験

を行いました！

7月28日(月)、高校生1日看護体験を開催しました。市内の高校生6名が参加し、かしま病院の看護を体験しました。

院内見学を行った後は、各病棟に配属され、看護師の業務を実際に行いました。主に、バイタル測定、足浴、ベッドメイキング、車椅子体験などを実施し、実際に患者さんとコミュニケーションをとる場面がありました。将来の職業選択の一つとなりましたら幸いです。

